



●Tackle Guide
 全長2~2.3メートル前後の専用竿やライトヒラメ竿、硬めのライトゲーム竿など穂先がしなやかで胴がしっかりした竿と、PE1.5~2号を巻いた小型両軸の組み合わせがおススメ。オモリや仕掛けは船宿で購入できる。

を狙っていくのでこまめにタナ取りするようにアナウンスされる。移動後すぐにはアタリが訪れず、しばしの一服状態に。



▼手パネでのヤリトリも面白い
 ややあって「あっ！アタった！」と声を上げたのは夫婦で来ていた小野希誉美さん。魚が引いたら竿を下げ、動きが止まったら聞き上げて食い込みをうながす。すると2分ほどたったところでググッと大きく竿が引き込まれる。

合わせも決まって無事にハリ掛かり。タモ取りされたのは40センチ級だが、この日がフルオーダーした手パネの筆下ろしとのことであれしろう。奥さんに負けじと夫の真一さんも手パネで45センチ級のマゴチを取り込んだが、「なんか私のより大きくない!？」と希誉美さんはやや不満げだ。



▼激しく頭を振って抵抗するマゴチの引きはたまらない
 取り、底から1メートル上げた直後にコツツコツツとアタリ。そのまま待っている。と次第にズンツンと重みを感じるようになり仲乗りさんの、「今だ合わせろ！」との声であわてて竿を立てるとズシツとハリ掛かり。頭を振って激しく抵抗する手応え。上がったのは40センチ級。ついに人生初のマゴチを釣り上げることができた。

初めてのマゴチに感動
 9時ごろになるといいスポットに入ったからか、船全体でアタリが出るようになる。しかし、この日はアタリが出ても途中でエサを放してしまったり、引き込んでも巻き上げる途中でバレたりとマゴチの食いは浅いようだ。それでも11時ごろにはほとんどの方がマゴチをキャッチでき、写真撮影も落ち着いたので私も竿を出すことにした。オモリが着底して糸フケを



▲サイマキは弱りやすいのでバケツの水は定期的に交換しよう

●船宿information
 東京湾奥横浜新子安
だてまき丸
 ☎080-6577-3742
 (詳細は巻末の情報欄参照)
 ▶料金=マゴチ乗合一人1万円(エサ付き)、女性8000円、高校生7000円、中学生以下6000円
 ▶備考=6時半出船。エサの手配があるので、できるだけ予約を

宮地 至人船長

だてまき丸のマゴチは3~6月後半まではサイマキエサ、7月以降はハゼエサで狙うとのこと。
 東京湾のマゴチは開幕したばかりでこれから本番。アタリが出てから合わせるまでの駆け引きを楽しみに出かけてみてはいかがだろうか。



●東京湾のマゴチはこれから本番

初心者でもチャンスあり！
開幕好スタートのマゴチ
 これまでプライベートでマゴチには5回挑戦したが、アタリがきても掛けられず一本も釣ったことがない。今回マゴチの取材に行く機会を得たので、船長から釣り方をしっかり勉強しようと3月11日に東京湾奥横浜新子安のだてまき丸へ釣行した。
幸先よい出だし
 早朝5時に船着き場へ到着すると、すでにお客さんたちが準備を始めていた。宮地至人船長にごあいさつし、マゴチ釣りが苦手である

●東京湾奥横浜新子安発→富岡沖
 本誌編集部 黒澤尚人 Naoto Kurosawa

ことを伝えると、「ちょうど今日マゴチ初心者の親子が二人くるから一緒に俺のレクチャーを受けるといいよ」とのこと。同船では出船前に初心者向けにエサのサイマキ(クルマエビの子供)の付け方と釣り方を教えてくれる。当日教わったエサの付け方については76ページを参照していただきたい。釣り方は、竿先を海面まで下げた状態でオモリを着底させてから糸フケを取って、軽くシャクするくらいに加減で竿先を1メートルほど持ち上げる。30秒から1分くらい待ってアタリがなければオモリ

知得! Tips and Tricks
ウロコ取り 便利グッズ
 右舷トモの津久茂さんからウロコ取りに便利ですと教えていただいたのが100円ショップなどで買えるワイヤーブラシ。車のホイールのサビ落としやBBQ用の鉄板の掃除などで使うものだが、マゴチの硬いウロコを落とすのに非常に便利だったのでぜひ試していただきたい。
 ▲柄が付いていて使いやすい

を再着底させ同様に探るといとのこと。これが底タチの確認と誘いを兼ねた動作になるそうで、「なるべく竿を置きっぱなしにせずこまめにやってね」と宮地船長はいいねいに教えてくれた。
 6時半になり、14名のお客さんに乗せ船着き場を後にする。早朝だというのに気温も高く気持ちのよい朝である。50分ほど走ってポイントの富岡沖に到着すると、仲乗りさんからサイマキが配られる。「エサ付け終わった人からやつてみて。水深17メートル」との合図でスタート。
 この日は6時48分が満潮時刻。船長によれば潮が動き出す直後と潮が止まる直前が一番のチャンスタイムとのこと。最初にアタリがあったのは右舷トモの津久茂佑介さん。ゴンゴンと竿先がたたかれ、しばらく待ってからググッと合わせた空振り。
 エサを確認すると頭だけ残った状態で帰ってきた。「今のアタリはフグだったかもしれません。今度こそマゴチを釣り上げます」と津久茂さん。
 そして次の投入直後にも津久茂さんにアタリ。じっくり

と1分ほど待ってから合わせを入れると今度はハリ掛かりした。
 グングングンとマゴチ特有の頭を振るような引きで上がってきたのは40センチ級。撮影していると、今度は右舷トモ2番の後藤さんにヒットして同級がタモ取りされ、さらに左舷トモの梶間さんも45センチ級のマゴチを釣り上げる。
 やがてアタリが少なくなってきたので小移動。水深は同じく17メートルだが、カゲ上がり